

第5学年 外国語活動学習指導案

児童 5年2組 35名
指導者 千葉 雅子
場所 ハロールーム

1 単元名 「外来語を知ろう」(英語ノート1 Lesson 6)

2 単元について

(1) 児童の実態

児童はこれまでに、4つの単元の学習を経験してきた。第1単元「世界の『こんにちは』を知ろう」第2単元「ジェスチャーをしよう」の学習では、世界に様々な言語があることを知ったり、言葉によらないコミュニケーションの大切さを体験したりして外国語活動の学習に対する興味が高まった。次の単元「数で遊ぼう」の学習では、日本と外国の遊びや数え方の違い、英語での数の言い方を知り、それを用いた様々なゲームを通して、楽しみながら積極的にコミュニケーションを図ることができた。また、前単元の「自己紹介をしよう」の学習では、英語で自分の思いを伝えたり相手の思いを受け止めたりして互いの理解を深めることができた。

第1回目の意識調査(8月18日実施)では、およそ8割弱の児童が外国語活動の時間を楽しいと回答した。その多くはゲームを行うことが楽しいと答えているが、英語を知ることができることや友達と話すことに楽しさを感じている児童もいる。一方、あまり楽しくないと回答した児童の理由を見ると、英語が分からないからというよりも、友達とやりとりすることやジェスチャーをすることが好きではないという理由が多かった。ゲームなどで友達とやりとりをすることに楽しさを感じる児童が多い反面、それが苦手意識につながっている児童もいることが分かった。また、「友達や先生の話の聞こえようとしているか」の問いには9割以上の児童がプラスの回答をしており、相手の伝えたいことを理解しようとしていることがうかがえる。しかし、「自分の考えや気持ちを進んで伝えようとしているか」という問いには2割以上の児童がマイナスの回答をしている。これは、あまり楽しくないと答えた児童に多く見られ、意欲の低下に結び付いているということが言える。

初めのうちは友達や先生と英語でやり取りをすることに難しさや恥ずかしさを感じる児童の方が多かった。そこで、ALTとのチャンツで自信をもたせたり、活動にゲーム性をもたせて楽しめるようにしたりしてきた。また恥ずかしがらずに話す様子や、相手が話していることをしっかり聞いて分かるように見える児童には賞賛の声を掛けたり紹介したりした。それらによって抵抗感が少なくなり、積極的に尋ねたり答えたりする児童が増えてきている。日頃はなかなか自分から友達に話しかけることができない児童が、外国語活動では進んで活動する姿も見られる。一方で、「覚えなければ」という意識が強く活動が消極的になってしまう児童や、英語の歌を歌ったり真似をして発音したりすることに未だに抵抗があり、意欲的に取り組むことができない児童も数名いるので、この単元を通して楽しみながら積極的に活動できるようにさせたい。

(2) 単元のねらい

本単元の内容は以下の通りである。

<主としてコミュニケーションに関すること>

- ・ 欲しいものを尋ねたり、要求したりして、楽しくフルーツパフェを作る経験をする。
- ・ 積極的に欲しいものを尋ねたり、答えたりすること。
- ・ 積極的にコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。

- ・ 自分の思いをはっきり伝える大切さを知ること。
- <主として言語や文化に関すること>
- ・ 外来語とそのもとになる言葉では発音に違いがあることなどの面白さに気付くこと。
 - ・ 外来語は様々な国から伝わった言葉であることを知ること。
 - ・ ALTの国の食べ物を聞いたりして、文化に対する理解を深めること。

本単元は、日本語の中には外国から伝わってきた言葉がありそのもとになる言葉の発音とは違っていることに気付き、普段使っている日本語への興味・関心を高めることがねらいである。

第1時では、身近な外来語を探す活動を通して、表す意味は同じでも外来語と英語とでは発音が違うことに気付かせる。第2時では、英語以外の言語がもとになっている外来語も取り上げ、身の回りにある外来語のものは英語だけでなく様々な言語であることに気付かせる。そして、日本と世界の国々とが言葉でもつながっていることに興味や関心をもたせる。また、レストランでの注文場面を取り上げ、注文したものを聞き取ったり欲しいものを注文したりすることを体験させ、発音に気を配ることの大切さを感じ取らせる。第3時では、身近な外来語として果物を取り上げ、それらを実際に使ってやりとりする場面として、フルーツパフェ作りを設定する。また、この活動を通して積極的に英語でコミュニケーションを図る楽しさを実感させる。第4時では、第3時で作ったフルーツパフェをクイズ形式で紹介する活動を行い、本単元のまとめとする。

(3) 指導に当たって

本単元では、外来語は様々な国から日本に伝わった言葉であり発音に違いがあることを知る活動、外来語のもととなった英語に慣れ親しむ活動、欲しいものを尋ねたり注文したりしてコミュニケーションを図る楽しさを味わう活動が中心となる。

外来語は様々な国から日本に伝わった言葉であり発音に違いがあることを知る活動では、まず外来語で表されるものをいくつか提示する。そして、それらがカタカナで表記されるという共通点に着目させ、外国から伝わったものであることに気付かせる。さらに外国から伝わったものには他にどんなものがあるか探させ外来語に興味をもたせる。それらの中から英語がもとになっているものを取り上げ、ALTの発音を聞いたり、日本語の発音のままでは伝わらない体験をしたりすることによって、外来語と英語では発音が違っていることに気付かせる。その際、カタカナで表記されていても英語以外がもとになっている言葉や和製英語があることにも触れる。また、日本語がそのまま外国で使われている言葉もあることにも触れ、日本の文化のよさにも気付かせたい。

外来語のもととなった英語に慣れ親しむ活動では、ゲームやチャンツを取り入れ、CDやALTの真似をして発音したり繰り返したりすることで身近な物を表す英語により親しませたい。また、日本語との違いに気を付けて発音している児童を賞賛し、積極的に英語の発音で発言する雰囲気をつくりたい。

欲しいものを尋ねたり注文したりしてコミュニケーションを図る楽しさを味わう活動では、友達が欲しいものを尋ねてパフェを作ってあげたり、自分が欲しいものを注文して手に入れ、オリジナルパフェを作ったりする活動を行う。果物の種類や大きさ、数などを工夫し、一人一人が意欲的に活動できるようにする。また、「自分のコミュニケーションツールを活かした体験的活動」として『オリジナルパフェを紹介しよう』の活動を行う。この活動では自分が欲しいものを注文して作ったオリジナルパフェをクイズ形式で紹介し合う。クイズ形式を取り入れることによって、目的をもち相手の発表を聞くことができるようにしたい。また、紹介する際に英語のやりとりを行うことで、単元で学習した表現を使うまとめの活動となるようにする。さらに、どうしてそのようなパフェを作ったのかを発表させることによって、「自分の思いが伝わった」「相手の思いを知ることができた」という満足感をもたせたい。

3 単元の目標

- 身近な外来語に興味をもつ。＜思考力とのつながり＞
- 英語を使って積極的に欲しいものを尋ねたり、注文したりする。
＜思考力・判断力・表現力とのつながり＞
- 外来語（日本語）と英語の発音の違いに気付く。＜思考力・判断力とのつながり＞

4 指導計画

(1) 単元の指導計画（指導時数 4 時間）

	＜第 1 時＞	＜第 2 時＞	＜第 3 時＞	＜第 4 時＞(本時)
目 標	外来語とそのも ととなる語とで は、音が違うこと に気付き、英語の 音に気を付けて発 音しようとする。	欲しいものを尋 ねる言い方、注文 する言い方を知 り、自分が欲しい ものを頼む。	欲しいものを尋 ねたり、要求した りして、フルーツ パフェを作る。	自分のオリジナル パフェを分かり やすく紹介した り、友達がどんな パフェを作ったの かを考えたりす る。
活 動	[Activity] * 英語ノート p36,p37 身近な外来語を 探す。日本語がそ のまま外国で使わ れている言葉があ ることを知る。	[Let's Play 2] * 英語ノート p36,p37 おはじきゲーム をする。	[Let's Chant] 「英語だけチャンツ」をする。英語 で発音されたときだけ繰り返して言 い、それ以外のときは手拍子を打つ。 * 英語ノート p37 チャンツ「What do you want?」	◎[Activity 3] 英語ノート p41 『オリジナルパフ ェを紹介しよう』 ・ What do you want?~,please. のやりとりをし ながら前時に作 った自分のパフ ェを紹介する。 ・ 紹介者のパフ ェがどれか一覧表 から選ぶ。 ・ 自分のパフェの おすすめポイン トを発表する。
	[Let's Listen] * 英語ノート p36,p37 CDの発音を聞 いてどの絵を表し ているか見付け る。日本語との発 音の違いを考えて 聞く。	[Let's Listen 1] * 英語ノート p38 CDを聞いて、 どこの国から来た 食べ物かを考え、 英語以外がもとに なった外来語を知 る。	[Activity 1] * 英語ノート p40,p41 友達が欲しいも のを聞いてパフェ を作る。	
	[Let's Play 1] * 英語ノート p36,p37 キーワードゲー ムをする。	[Let's Listen 2] * 英語ノート p39 CDを聞いて、 何を注文したのか を考える。自分が 欲しいものを答え る。	[Activity 2] * 英語ノート p40,p41 自分のオリジナ ルパフェを作る。 おすすめポイン トを考える。	
		[Let's Chant] * 英語ノート p37 チャンツ「What do you want?」		

◎... 【自分のコミュニケーションツールを生かした体験的活動】

[Let's Listen]…CDやALTが話す語彙や表現を聞いて、新しい表現を知ったり、質問の答えを考えたりして外国語に慣れる。

[Let's Chant]…リズムに合わせてCDやALTの言う外国語（英語）を真似し、外国語独特のリズムを感じ取ったり、表現に慣れたりする。

[Let's Play]…◇ 単元で扱われる表現や語彙を、ゲームなどを通して、繰り返し聞いたり話したりして慣れる。

◇ 学んだ英語を使って簡単なコミュニケーション活動をする。

◇ 異文化に触れ、日本文化との共通点や相違点などに気付く。

[Activity]…慣れ親しんだ語彙や表現、ゲームの経験を活かして、

① 日常生活により近い場面、たくさんの相手とのやりとりを必要とする場面、1対1でより多くのやりとりをする場面でのコミュニケーション活動を体験する。

② 日本の文化と世界の文化について新たな発見をしたり、自分の考えや思いを表現したりする。

*英語ノート…英語ノートを活用しての活動

(2) 慣れ親しませたい表現・語彙

<慣れ親しませたい表現> What do you want? ～～,please. Here you are.
Thank you.

<慣れ親しませたい語彙> kiwi、peach、melon、cherry、grape、lemon

5 本時の目標

(1) 目標

○ 自分のオリジナルパフェを分かりやすく紹介したり、友達がどんなパフェを作ったのかを考えたりする。 <思考力・判断力・表現力とのつながり>

(2) 自分のコミュニケーションツールを活かした体験的活動について

本時に活かす コミュニケーションツール	体験的活動	支援の仕方
<p>1 姿勢</p> <p>ア 外国の文化を受け入れようとする姿勢</p> <p>イ 自分の思いや考えを伝えようとする姿勢</p> <p>ウ 相手の思いを感じ取るうとする姿勢</p> <p>エ 相手とのやりとりをあきらめない姿勢</p> <p>2 方略（英語の語彙や文法に関する知識が不足している場合に、相手とのやりとりを続けていくためのもの）</p> <p>ア 表情</p> <p>イ ジェスチャー</p>	<p>◎『オリジナルパフェを紹介しよう』</p> <p>前時に作ったオリジナルパフェをクイズ形式で発表し合う。その際、発表する児童と聞いている児童とでお店でのやり取りを再現する。発表者は自分のパフェに使われているものを3つ選んで分かりやすく発表する。聞いている児童は、発表者がどんな果物を選んだのか、どんな特徴があ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ チャンツで慣れた表現を使ってやりとりさせる。 ・ 尋ね方と答え方、おすすめポイントの紹介をどのようにすればよいかを児童に感じ取らせるために、デモンストレーションする。 ・ クイズを取り入れることによって、相手の発表を聞く目的を明確にもたせる。 ・ 聞く意欲を持続させるために、誰のパフェ

<p>ウ ものまね エ 言い換え オ 近い言葉を自分で作る</p> <p>3 表現・語彙</p> <p>ア コミュニケーションの働きを円滑にするもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お礼を言うこと。 <p>Thank you.</p> <p>エ 考えや意図を伝えるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パフェを紹介し合うこと。 <p>What do you want? ～～,～～,～～, please. Here you are.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おすすめポイントを発表すること。 <p>My parfait is ～.</p>	<p>るのかに注意して聞く。</p> <p><思考力・判断力・表現力とのつながり></p>	<p>であるかの答えは全員の発表が終わった後に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような思いで自分のオリジナルパフェを作ったのかを紹介し合い、お互いの思いを分かり合えるようにする。 ・ おすすめのポイントの紹介についてはどのようなことを伝えたいかを事前に把握しておく。
---	---	---

(3) 展開

過程 (分)	児童の活動	教師の支援 (◎評価、◇教材・準備物)
導入 (7)	<p>1 あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員であいさつをする。 <p>Hello I'm ～.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達や先生とあいさつをする。 <p>2 [Let's Chant]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 果物の英語でチャンツを言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童とあいさつをする。 <p>Hello. How are you?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけ多くの児童とあいさつをする。 <p>◇ 英語ノート p40 の果物絵 (電子黒板) ◇ リズムCD</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次の活動で自信をもって話すことができるように、単語だけを取り上げたり、英語ノートのチャンツの言葉を換えて言ったりする。
展開 (30)	<p>3 [Activity 3]</p> <p>【自分のコミュニケーションツールを活かした体験的活動】・・・</p> <p>『オリジナルパフェを紹介しよう』のやり方を知る。</p>	<p>『オリジナルパフェを紹介しよう』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に6つのグループに分けておく。 ・ 前時に作ったオリジナルパフェを、グループに分かれて紹介する活動を行うことを告げる。 <p>◇ グループごとのパフェ一覧表 ◇ 拡大したパフェ一覧表 (H R T が作製したパフェ) ◇ 活動の流れを示した紙板書</p>

	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれる。 一人ずつオリジナルパフェを紹介する。 発表者のパフェがどれか選んで記入する。 全員の発表が終わったら答えを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> グループの代表のパフェを全体の前で紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> パフェ一覧表に載っているパフェの中でどれが発表者のものか、注意して聞くように促す。 ペープサートを用いてデモンストレーションをする。 A: What do you want? B: Two cherries, please. A: Here you are. What do you want? B: Two strawberries, please. A: Here you are. What do you want? B: Peach, please. A: Here you are. B: Thank you. <ul style="list-style-type: none"> 児童は一覧表の中からどれがH R Tのものか1つを選ぶ。 児童が聞く側の役割となり、デモンストレーションをする。 児童の代表が発表者の役割となる。1つのパフェを提示し、そのパフェを紹介するとしたら何を伝えるかを考えて児童の代表者に紹介させる。 デモンストレーションの答えを確かめる。 答えを確認した後で自分のパフェのおすすめポイントとどんな思いで作ったのかを発表することを告げ、例を示す。 What do you want?のやりとりは3回とし、クイズなのですぐに答えが分からないようにヒントを出す順序を考えるようにアドバイスする。 グループの全員の発表後に、答えを確かめどうしてそのようなパフェにしたのかを話すこと、グループの代表を決めることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 進行役を務める児童に事前に進め方を指導しておく。 全体に紹介したいパフェを考えながら紹介を聞くように声をかける。 英語の発音に気を付けて発言している児童を賞賛する。 聞いている児童と一緒に What do you want?などを言う。 おすすめポイントの紹介などに戸惑う児童には、事前に確かめていたものを基にアドバイスする。 <p>◎ 自分のオリジナルパフェをわかりやすく紹介したり、友達がどんなパフェを作ったのか注意深く聞いたりする。 <発表の様子、行動観察、感想カード></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【目指す子どもの姿】</p> <p>外来語と英語の発音の違いを考えながら伝えたいことを分かりやすく発表したり、友達が伝えたいことが何か考えながら聞いたりする。</p> <p style="text-align: center;"><思考力・判断力・表現力とのつながり></p> </div>
<p>終末 (8)</p>	<p>4 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想を発表する。 あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に本時の振り返りをさせる。 児童の英語を使おうとする態度面についてよかったところを話し、次時の意欲につなげる。

